

子規・漱石を未来へつなごうプロジェクト

募集要項

【趣旨】

2017年は、正岡子規と夏目漱石が生まれて150年の節目の年です。

日本を代表する文学者である子規と漱石は、学生時代からの親友であり、ともに悩みや苦しみを打ち明けられるかけがえのない存在でした。子規は俳句、漱石は小説の分野において、後世に永く受け継がれる多くの作品をのこし、今や世界に知られる存在となっています。

生誕150年の節目に、子規と漱石が育んだ友情や文学の創造と革新にかけた志など、二人の思いを様々な形で紹介することで、市民の皆さんに子規と漱石を身近に感じていただき、松山に一層の愛着や誇りを持ってもらいたいと思っています。また、全国から訪れる方々にも、松山であるからこそ体感することができる二人の足跡に触れ、文学のまち松山の魅力を感じてもらいたいと考えています。

つきましては、趣旨にご賛同いただき、子規と漱石を松山から世界へ、そして未来へつなぐプロジェクトへご参加いただける企業・団体を募集します。

プロジェクト① 広めよう子規・漱石の輪

学生時代に知り合い、生涯の友となった子規と漱石。松山でも俳句を作り、散策をするなど深い友情を育みました。松山市では生誕150年を記念し、ロゴマークを制作しました。このロゴマークを活用して、市内を子規・漱石の友情の輪で彩ってみませんか。

○内容

文化・ことば課より、ロゴマークのデータを提供します。広報媒体や名刺、イベントなどの様々な用途や場所で活用いただき、「オール松山」で子規・漱石生誕150年の機運を盛り上げます。

プロジェクト② 未来へつなごう子規・漱石の俳句

子規は結核と闘いながら俳句の革新に取り組み、生涯でおよそ24,000の俳句を作りました。松山で漱石は子規から俳句を学び、二人は俳句作りに熱中します。生誕150年のこの機会に「未来に伝えたい子規・漱石の俳句」を選び、市内外の人々に紹介してみませんか。

○内容

「正岡子規の俳句（季節別）」（松山市オープンデータサイト）などを活用し、「未来へ伝えたい子規・漱石の俳句」を選び、印刷物やホームページ等で紹介いただきます。

プロジェクト③ 150年目のオンリーワン

子規は俳句、漱石は小説において、日本を代表する作品を生み出し、それは未来の私たちへと伝わっています。イベントや商品開発、冊子発行など、企業・団体のアイデアが詰まったオンリーワンの取り組みで、子規・漱石をアッと驚かせてみませんか。

○内容

子規・漱石に関わる自主企画を実施いただきます。市では取り組みへの支援として、子規・漱石の肖像写真や資料写真の提供、史実の確認などの協力を行うことが出来ます。

【募集対象】

上記①から③のいずれかのプロジェクトにご参加いただける市内の企業・団体

【応募方法】

別紙「参加票」に企業・団体名、代表者名等の必要事項を記入し、持参、e-mail または郵送で文化・ことば課に応募してください。取り組み内容については、概要書の添付をお願いします。

【応募期間】

1次募集：平成29年2月9日（木）から平成29年3月31日（金）

【受付後の流れと注意点】

- ・応募受付後、内容確認のため担当者様へご連絡させていただきます。
- ・内容確認後、ロゴマークや子規・漱石の肖像写真等のデータ、参考資料等をご提供します。
- ・数に限りがございますが、ポスター・缶バッジ・幟等も支給・貸与できる場合があります。製作のためのデータを提供することも可能ですので、ご相談ください。
- ・企業・団体の皆さんの研修の場として、松山市立子規記念博物館および坂の上の雲ミュージアムの観覧料の優待割引があります。詳細は改めてお知らせします。
- ・取り組みについては、「広報まつやま」や松山市のホームページで紹介する場合があります。

■正岡 子規（1867～1902）

松山出身。本名は常規（つねのり）。20代前半から結核と闘いながら、俳句・短歌・散文など様々なジャンルの文学の革新に取り組み、日本の近代文学に大きな足跡を残す。また、夏目漱石や森鷗外といった多くの文学者と交流を持ち、高浜虚子や河東碧梧桐ら多くの門人を育てた。司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の主人公の一人としても知られる。

■夏目 漱石（1867～1915）

東京出身。本名は金之助。近代日本を代表する小説家で子規とは学生時代からの親友。明治28（1895）年、教師として松山に赴任し、1年間英語を教えた。下宿「愚陀佛庵」で子規と52日間同居し、子規から俳句を学ぶ。松山を題材にしたといわれる「坊っちゃん」をはじめ、「吾輩は猫である」や「こころ」など、数々の名作を残した。

■子規・漱石生誕150年を記念する取り組み

「松山から世界へ そして未来へ」をテーマに、子規と漱石の「出会い」「友情」「別れ」「功績」の紹介を軸とした事業を行う予定です。

子規と漱石が松山で俳句作りに熱中したこと、漱石が子規との別れを惜しみながらロンドンへ留学し、世界を体験したこと、現代に通じる文学をのこしたことなど、等身大の二人にスポットをあてたエピソードを効果的に盛り込み、松山ならではのストーリー性を持った様々な事業を行います。

取り組みは、平成29年から年間を通じて実施します。